

学びをひろげる (第17回)

※ ○は、自分以外の参加した人の数です

まる (わたしと○人の会)

日時 2016年10月8日(土) (1時45分~5時)
場所 クレオ大阪東
(大阪市城東区鳴野(しぎの)西 2-1-21 ☎06-6965-1200)
参加費 500円(会場費・運営費等) ※学生は、無料です。



京橋駅 (JR線) 南口から南へ約600メートル
大阪ビジネスパーク駅(地下鉄長堀鶴見緑地線)
4番出口から東へ約700メートル
京橋駅 (京阪線) 中央口から南へ約850メートル

一人で拡がらない学びを○(まる)人が集まり、多様な人たち(年齢、国籍、職種など様々な人たち)との出会い・対話を通して自分の学びを拡げ、授業づくり・教材づくりをしませんか。もう一度、教育・授業のあり方をていねいに見つめ語り合いましょう。

前回 第16回の内容

岡中 克史さん(三重県在住 中学校美術教員) 提案 “森のアトリエ”

「インクルーシブなみんなの居場所として、ARTを起点に運営をしたいと日々実践です。いろいろな生きにくさの横に寄り添って、生き直しの場所としてありたいのが、私たちの願いです。美術・音楽・ダンス・文章などなど、多様な表現活動のサポートを、伊賀の森のアトリエでしています(´_`)よろしければ、どうぞおこしくくださいね。」(「森のアトリエ」ホームページから)「森のアトリエ」とは、「居場所」。それは「出会いの場」、「交流の場」、そして「通過点」でもあります。一度来た人たちが再び、何度も訪れる「再会の場」でもあります。

アトリエには、1. 造形スペース 2. スタジオスペース 3. 子ども図書館があります。活動に参加した子どもや大人たちが、回を重ねながら主体的に参加するようになり、中にはやがてスタッフとして活動するメンバーとなる人たちもいます。「森のアトリエ」が、出会いと関わりを大切にする場ですが、1回の関わりではなく、何回も何年も繰り返して訪れ、参加する人たちの歴史が交錯・交流する場ともなっていることが想像されます。

「森のアトリエ」は、岡中さんの住まいにもなっています。ある日、敷地内でイノシシが死んでいるの発見し、急きょ職場に連絡して時間休をとり、イノシシを処分して学校に向かったという話を披露されました。伊賀の森に囲まれた草原に一軒建っている「森のアトリエ」。岡中さんは、そこに住まいして、静寂の空気を吸い、風の音を聞き、生き物の気配を感じる、そのような暮らしをしながら、訪れる高齢者や、障害者、子どもたち、バンドの若者たちと、地続きで関わっておられます。同時に中学校で教師として教育活動に取り組まれています。

私(松森)だったら個人の生活と「教育」の仕事の間に距離をとるでしょう。全身全霊をかける誠実さが、とても岡中さんのようにはゆきません。岡中さんの実践は宮沢賢治を髣髴とさせます。



研究会のようす

今回 第17回は

初任者からの提案 「わたしはこんな授業をしました！」

枚方市と交野市の小学校に勤務する二人の女性教員から報告していただきます。

こんな授業をしました。教室でこんなことがありました。こんな子どもがいます。保護者とこんな話をしました。・・・ありのままの教室の出来事を話していただこうと思います。

打ち合わせの時、「何をしゃべっていいか全然自信がありません。指導要領通りの授業しかやっていません・・・」といわれました。ありのままがいいんですよ。次へどう進めていけばいいのか、参加者も一緒に知恵や経験を絞り出して、考えて行きたいなと思っています。「すばらしい授業」を期待しているのではありません。「学びの会」の参加者は、批判するために来るのではなく、いっしょにつくりだすために集まっています。私(松森)はそう答えました。

みなさん、いっしょに考え話し合いましょう！

「学びをひろげる」スタッフ 堀 智晴、松森 俊尚、山本 卓雄

連絡先 松森 (☎090・1960・3469 ☎✉gakimon57tm@ezweb.ne.jp ☎✉matumori@crux.ocn.ne.jp)

山本 (☎✉yamamoto5.cham@gmail.com) 堀 (☎✉hori720@hotmail.com)

★次回第18回研究会は、2016年12月10日(土)午後1時45分~5時 阿倍野市民学習センターにて★